

| | | | | | |
|--------|---|----------|---------------------------|-------|--------------------|
| 学校教育目標 | 共に育つ「なかわだっこ」 な: 仲良く過ごそう(相手の気持ちを考えて過ごす子を育てます) か: 考える力を伸ばそう(どうしたら良いか、何が正しいかなど、自分で判断し行動できる子を育てます) わ: わかり合おう、違いを認めて(みんながもっている違った良さを認め合い、わかり合おうとする子を育てます) だ: 誰もが安心して過ごせる学校にしよう(いじわるやいじめをなくし、みんなが安心して過ごせるようにしようとする子を育てます) こ: 言葉を大切にしよう(言葉にしてきちんと伝え、丁寧な言葉遣いや気持ちの良い挨拶を大切にしようとする子を育てます) | | | | |
| | 創立 135 周年 | 学校長 山中 卓 | 副校長 バックマスター江里子 | 2 学期制 | 一般学級: 19 個別支援学級: 7 |
| 学校概要 | 児童生徒数: 592 人 | | 主な関係校: 中和田中・和泉小・伊勢山小・上飯田小 | | |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 中和田中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| 「自分づくりの力」 「共に高め合う力」の育成 | 中和田中学校 中和田小学校 和泉小学校 伊勢山小学校 (上飯田小学校) | 自ら進んで学びに向かう児童生徒 互いの良さを認め合える児童生徒 ・各教科等における探究活動にICTを活用することで、児童生徒が主体的に学習に取り組み、表現する力を育てる。 ・小中の授業交流では、子どもの姿をもとに協議を行い、小中の一貫教育を進め、義務教育9年間で育てる児童生徒像を共有して共通目標の実現を図る。 |

| | |
|--------|--|
| 中期取組目標 | 「子ども一人ひとりを大切に、誰もが安心して楽しく過ごせる学校づくり」 ○丁寧な児童理解をもとに、子ども一人ひとりに寄り添った指導、支援を行います。 ○異学年交流や学年行事、学校行事の中で子どもの思いを生かし、子どもの自己有用感、自尊感情を育みます。 ○子どもの主体的な学びを目指した授業改善に取り組み、学ぶことが楽しいと思える教育活動を実践します。 ○特別支援教育の充実を図り、安心できる居場所づくり、わかる喜びを感じることができる学習環境をつくります。 ○保護者、地域、外部の方々との連携を大切に、様々なふれあいを通して豊かな心を育てます。 |
|--------|--|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------------------|---|
| 知 授業改善 | ①基礎・基本の定着を図ること②既習事項を生かしながら子どもたちが主体的・対話的に学習を進めていけるようにすること③自力解決、グループ解決、全体解決という共同的な学びを取り入れた学び合いの授業を実践していくこと。以上、3点を意識し、授業改善に取り組んでいきます。また、学年の実態を踏まえた授業づくりに努めていきます。 |
| 担当 学力向上委員会・重点研究 | |
| 徳 人権教育 | ①「わかり合おう 違いを認めて」の目標達成に近づけるよう、個別支援学級と一般級の連携を強化します。職員による交流児童に対する居場所や受容的な雰囲気づくり、児童同士が相手のことを知り、違いを認める取組を重点的に進めていきます。 |
| 担当 人権教育担当・道徳部 | |
| 体 健康教育 | ①児童が自分の体に関心をもち、心と体が健康であるために必要な生活習慣や食事について知り、自らの健康のために実践できるようになることを目指します。②学校保健委員会を通して、心が健康であるためには、友達との良好な関係を築くことが大切であることに気づき、横浜プログラムの実践から、自分の心を健康に保つための人とかかわり方について伝えていきます。 |
| 担当 体育部・保健部 | |
| 公開 自分づくり教育 | ①多くの関わりを通して自分の良さや役割を理解し、目標をもって自分を高める力を育てます。②体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自己有用感を高めるようにします。自らの成長や学習状況振り返り、自身の変容や成長を実感できるようにします。 |
| 担当 特別活動部 | |
| いじめへの対応 | ①「いじめは絶対に許されない」という意識を高め、いじめが発生しにくい風土づくりの醸成に努め学校全体でいじめの未然防止に取り組めます。②早期発見と積極的な認知、迅速な対応と解決への取組、定期的な面談やアンケート等を引き続き実施します。 |
| 担当 いじめ防止対策委員会 | |
| 人材育成・ 組織運営(働き方) | ①一人ひとりが生き生きと学校運営に関わることができるよう、良さを生かして活躍できる場を設定します。②メンター研、学年研、重点研などを通して、互いに学び合い指導力の向上を図ります。③会議の適切な精選や効果的なICT機器の活用により、長時間勤務等の働き方の改善をより一層図ります。 |
| 担当 教務部・メンター研 | |
| 特別支援教育 | ①個に応じた温かい指導を行うために、児童の様子をしっかり見取り、個別支援学級、特別支援教室、通級指導教室、ハートフルと密に連携しながら的確な指導・支援をしていきます。②個別の教育計画や指導計画のもと、一人ひとりに寄り添いながら児童の特性に応じた特別支援教育の充実を図ります。 |
| 担当 特別支援委員会 | |
| 児童指導 | ①担任、児童支援専任、管理職、カウンセラーや外部機関との共有・連携を大切に、子ども理解の感度を更に高めながら、問題の早期発見・素早く丁寧な対応に努めます。②不登校児童を中心に、学びの場や支援方法、登校アプローチや保護者との連携について改善を進めます。 |
| 担当 児童指導委員会 | |
| 地域連携 | ①学校・家庭・地域が一つになって子どもの成長を見守り、安心して学校生活を送れるようにします。②授業では地域の材と積極的に関わりながら、まちに目を向ける機会を増やしていきます。③ホームページを中心に学校の様子を発信し、学校の取組を理解していただけるようにしていきます。 |
| 担当 教務部 | |
| | b10 |
| 担当 | |